

開会挨拶

学生生活委員会委員長
華頂短期大学学長

中野正明氏

皆さん、おはようございます。財団法人私学研修福祉会主催によります私立短大学生生活指導担当者研修会を開催するにあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

今年のテーマは、昨年に引き続きまして『人間力育成にむけた学生支援のあり方』、特にサブタイトルに“元気のでるキャンパスづくりを目指して”を据え、2日間の研修を進めてまいりたいと考えています。このようにたくさんの方々にご参加をいただき、まことに有難うございます。

ところで、今更、短期大学を取巻く厳しい環境についてお話をする必要はないかと思いますが、今、ここで私たちは短期大学教育の特長について考えてみなければならないのではないかと考えております。特長というのは、優れた特性ということですが、四年制大学の縮刷版といえますか、模倣型の短期大学教育のあり方というようなことで、従来短期大学が存在していたのかなという部分を、どのように考えるのかということですが、やはり、四年制大学と私ども短期大学は、同じ高等教育機関ではありますが、その担っている役割とか使命というのは違うと思うのです。独自の教育体系の開発にむけて考えていかなければいけない。日本私立短期大学協会でも、春の総会以来、いろいろなご意見がありまして、正副会長会ではどのような考えを持っているのかという加盟校からの厳しいご指摘がありました。すなわち短期大学の教育のあり方を、私立短期大学協会としても、社会にもっとしっかりとアピールして、短期大学とは、四年制大学の教育、あるいは専門学校の教育とはここが違うのだ、ここが最も特長として、皆さんのニーズに答えていく高等教育機関なのだということを自信をもって、誇りをもって、アピールしていかなければいけないのではないか、という声が大いに寄せられました。それらの声を受けて、特別委員会として『短期大学教育の充実に関する検討委員会』を立ち上げ、次年度の総会に何らかのご提示をすべく、今取り組んでいる最中であり、このようなことを議論するとき、併設型の短期大学、あるいは独立した短期大学など、設置形態にいろいろ違いがあるため、一概には言えないとは思いますが、短期大学は少なくとも社会にもっとも直結した高等教育機関であるということ間違いありません。その社会にもっとも直結した高等教育機関であるということ、その優れた点として、どのように生かして教育を行うのかということについて、私ども短期大学教育に携わる関係者は、これまで果たして真剣に議論を深めてきたのかと考えてみますと、反省すべきことが多々あったのではないかと、やはり四年制大学型の教育を行ってきた部分があったのではないかと思うわけです。

私は、この学生生活委員会をお預かりしてから、あるいは私の短期大学におきましても、正課授業と正課外の学校行事及び課外活動などを一体化した教育課程の実現が何より重要なことではないかと考えています。短期大学は、四年制大学に比べれば小規模校が多く、きめ細やかな教育が可能であり、そして社会に最も近い距離にあることから、目的意識をしっかりと持って社会に直結する、密度の濃い教育が実現できる高等教育機関であると主張しております。短期大学設置基準が改定され、FDの学則への記載が義務化されることについて、ちょうど来年度の学則に各短大とも教育方法の改善に向けた組織的な取り組み内容を掲載する議論が進められているかと思いますが、このFDというのは、カリキュラムの問題であったり、あるいは教員の教育方法の問題であったり、と思いがちかもしれませんが、私たち学生生活指導に携わる者からすると、そうではなくて、先ほど申し上げましたように、正課の授業と正課外の学校行事や課外活動を一体化した教育課程への取り組みとしたならば、FDの中に当然、この学生生活指導というものを盛り込んで考えていかなければならない。そういう意味におきまして、人間力というと非常に抽象的で、どのようなことを指すのか議論の白熱するところかとは思いますが、短期大学は社会に直結している高等教育機関として、四年制大学や専修学校とは異なった密度の濃い学校生活の中から、人間力を育成するにもっとも相応しい教育機関であるということに自信を持って語れるような体系を、やはり私どもは主張していかなければならないと思います。いろいろな行事や講座、あるいは活動を通して、元気のあるキャンパスになっている必要があるかと思えます。学生からすれば、そのようなキャンパスで生活することが、短い期間ではあるけれども、2年後、すぐに社会に出て、いろいろな分野で活躍をしていくことへの満足度というものを、充実感をもって感じ取ることができたなら、4年間大学生活を送るのとはまた一味違った高等教育のあり方となるのではないかと思います。是非、元気のでるキャンパスづくりを通して、人間力育成にむけた学生支援のあり方ということ、グループ討議などの場で十分にご議論をいただければと思うわけです。

昨日は名古屋近辺の4短期大学のご協力をいただきまして、短期大学見学を個々にさせていただいたかと思えます。名古屋の地は、駅をおりましても、あるいは中心街を散策しましても、本当に元気のある地域です。この経済力豊かな、今一番活気のある名古屋の地にあやかりまして、私ども元気のでるキャンパスづくり、そしてまた明日にむかっての短大のあり方について、研修が実りあるものになればと思います。

研修会資料集の後半に編集されている資料編は、いろいろな見方で、しっかり分析をしながらご覧をいただくことによりまして、今後の方向性を考えるうえでのヒントがかなり隠されているように思えます。このような資料なども十分にお使いいただいて、ご討議を展開していただけたら有難いと思うわけです。

重ねて申しますと、短期大学が今日おかれておりますこの厳しい時代ではありますけれども、しかしまだまだ短期大学の社会における存在感、使命というものたくさんあるのでございまして、教育課程のあり方をめぐって四年制大学や専修学校との違いを明確に主張し、2年ないし3年という短い期間において、効率的に社会に直結することが可能である高等教

育機関として、これまでの長い間、短期大学が背負ってきた実績、そして社会における存在価値というものを、今後も永遠にしっかりと主張のできる各短期大学でありたいと思います。

それでは、今日・明日の2日間、是非とも実りある研修を行っていただきますよう重ねてお願いをいたしまして、開会の挨拶といたします。